

新庄土地改良区

理事長あいさつ

新庄土地改良区
理事長 鏡 利 光



気温はまだ低いとはいえ、窓から入る春めいた日差しが嬉しいこの頃です。

組合員の皆様には、日頃より当改良区の運営、事業の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて私こと、この度任期満了に伴う互選会において、佐藤前理事長の後任として理事長の重責を仰せつかりました。皆様のご指導のもと、この大役を全うすべく力を尽くしてまいりますので、ご支援ご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

地域農業を取り巻く状況は、令和の米騒動を受け農業政策が不安定な中、過疎化・高齢化による担い手の減少、エネルギーや資材、肥料を始めとする物価の高騰、一昨年豪雨災害や昨年の記録的な猛暑・渇水という異常気象に見舞われるなど益々厳しいものとなっております。

このような状況を踏まえ、10年20年後の将来を見据えながら、確かなビジョンを掲げ、有意義な方策を立案し、実行していくことが重要であると認識しております。

一点目は、基幹水利施設の更新事業についてでございます。国営二期事業の令和14年度の着工を目指し、省エネルギーかつ低負担事業の計画を国、県と共に策定中であり、併せて着工までの期間、老朽化施設の事故防止並びに長寿命化に万全を期してまいります。

二点目として、水稻生産コスト低減のための農地基盤整備事業の推進についてでございます。鶴の子地区や畑地区の大区画フル整備事業はもとより、地区内の大半を占める30a区画ほ場の大区画化、用排水路のパイプライン化、ICT技術導入を図るための簡易ほ場整備事業（ハード）と同時に、規模拡大の妨げとなっている点在する農地の集約化（ソフト）を関係機関と連携し取り組んでまいりたいと考えております。

三点目として、水利施設、農地の恒常的な維持管理についてでございます。電気料金の高騰が続く中、基幹水利施設管理事業等の予算をしっかりと確保すること及び節水節電による電気料の支出削減は最重要課題でございます。また、担い手減少が進む中、末端農地や水利施設を永続的に管理していくためには、管理組織の強化が求められます。各地区維持管理委員会、地域保全会、関係機関と連携のもと、より良い管理方策の構築を目指してまいります。

結びになります。総代の皆様、関係機関との連携のもと、役職員一丸となって、適正な運営と着実な事業推進に努めてまいりますので、組合員、関係各位には絶大なご支援をお願い申し上げます。

皆様には、春の訪れとともにいっそうのお幸せが訪れることをお祈りいたしますとともに、本年が災害のない平穏で稔り多き年となりますようご祈念申し上げ就任のご挨拶とさせていただきます。



地域に根付き暮らしを彩る農業用水

ロゴマークは、中央に新庄盆地を取り囲む空蔵山をはじめとした「山」、最上川と新庄市内を流れる最上川支流（泉田川、新田川、升形川、指首野川等）へ自然の恵みである雪解け水が注がれる様子を表した「川」を配置し、周りを「水滴」で取り囲んだものです。

「水」をコンセプトとした区章（ロゴマーク）は、限られた資源である農業用水の多面的機能が継続的に発揮され、地域が豊かな農業農村であり続ける願いを表現しています。